東京慈恵会医科大学
葛飾医療センターニュース
Katsushika Medical Center News
患者さん向けに作成しています

3 すべての人に健康と福祉を

2026
No.79
autumn

編集発行責任者　飯田 誠
〒125-8506　東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL:03-3603-2111(代表)
URL:http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/

INDEX

01. 診療科紹介(脳神経内科)
02. 診療科紹介(脳神経内科・皮膚科)
03. 診療科紹介(皮膚科)
04. 乳がん看護認定看護師の役割



診療科紹介/脳神経内科

●脳神経内科について



脳神経内科 診療部長
大本 周作

脳神経内科は、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の病気を専門に診療する内科です。しびれや筋力低下、歩行障害、ふるえ、頭痛、めまい、物忘れ、けいれん、意識障害など、脳や神経の病気によって生じるさまざまな症状に対応しています。これらの症状は、一見すると似ていても原因となる病気はさまざまです。そのため、手足の動きや筋力、感覚、反射、歩行などを詳しく調べる神経学的診察を基本とし、MRIやCTなどの画像検査、脳波や神経伝導検査などを組み合わせながら、症状の原因となる病変部位や病態を総合的に評価し、適切な診断・治療へとつなげています。

現在、4名の常勤医が診療にあたっています。日本神経学会専門医をはじめ、日本脳卒中学会専門医、日本認知症学会専門医、日本臨床神経生理学会専門医が在籍し、それぞれの専門性を生かした診療を行っています。



●主な疾患と診療の特徴

脳神経内科では、脳卒中、てんかん、神経感染症、末梢神経疾患、筋疾患など、神経系に関わる幅広い疾患を診療しています。なかでも、超高齢社会で増加しているアルツハイマー病をはじめとする認知症や、パーキンソン病などの神経変性疾患は、当科で診療することの多い疾患です。さらに、重症筋無力症や多発性硬化症などの神経免疫疾患を含め、さまざまな神経疾患に対する専門的な診断・治療にも対応しています。

近年、認知症診療では、診断技術の進歩により、アルツハイマー病をより早期かつ正確に診断できるようになりました。また、治療薬の進歩も目覚ましく、アルツハイマー病の進行を抑える新しい治療薬（抗アミロイドβ抗体薬）も実用化されています。さらに、重症筋無力症や多発性硬化症などの神経免疫疾患では新たな治療薬が開発され、治療の選択肢が広がっています。また、パーキンソン病においても、薬物療法を中心に治療選択肢が増え、患者さん一人ひとりの症状や病期に応じた治療が可能となっています。

脳神経内科の病気には、長期的な診療を必要とするものも少なくありません。治療だけでなく、病気とともに生活していくための支援も大切にし、リハビリテーション科や看護師、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携しながら診療を行っています。病状や生活背景を踏まえ、わかりやすい説明を心がけるとともに、地域の医療機関とも密接に連携し、継続的で質の高い医療の提供に努めています。



診療科紹介/皮膚科

診療は、3名の専門医を含む7名の常勤医師が担当しています。皮膚に症状がみられる疾患を対象としています。まずお近くの皮膚科クリニックにご受診いただき、通常の治療で治らない場合や診断に苦慮する場合には、受診したクリニックから紹介状をいただいて当科をご受診ください。併せて、お薬手帳などもお持ちいただくと診療がスムーズになります。保険診療を対象としており、自由診療は行っておりません。あざのレーザー照射や全身紫外線照射は機器がないため行えません。また他院で行った美容処置に伴う皮膚症状に対する診療は行っていません。

当科では3つの疾患の診療に力をいれております。



皮膚科　診療部長
川瀬 正昭

①乾癬

乾癬は皮膚に炎症を伴い、慢性的に経過する疾患です。「かんせん」という名称から誤解されがちですが、人から人へうつる病気ではありません。皮疹は、頭皮や髪の生え際、ひじ、ひざなど、外的刺激を受けやすい部位に生じやすい傾向があります。爪の変形や関節の痛み（関節症性乾癬）を伴うこともあります。関節症性乾癬は放置すると関節や骨の変形を引き起こし、慢性的な痛みの原因となるため、早期治療が重要です。



②アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎は、アレルギー素因を持つ体質や皮膚バリア機能の低下など、複数の要因が関与して発症する、慢性的なかゆみを伴う皮膚疾患です。



①と②の両方の疾患とも、日本皮膚科学会で出されている診療ガイドラインに従って治療を行いますが、重症な例には生物学的製剤の治療を行います（当院は日本皮膚科学会より生物学的製剤承認施設として認定）。他の皮膚疾患との鑑別のため、当科では導入前に必ず皮膚生検をしています。生物学的製剤は高額な治療となるため、まずはかかりつけ医にご相談の上ご自身の場合いくら位かかるかをわかった上で、紹介状をご用意ください。平日午前にご予約ください。治療中は血液検査や画像検査も必要となります。

③難治性疣贅

皮膚科でいう「いぼ」は、ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）感染によって生じるウイルス性疣贅を指します。外来で最も多いのは尋常性疣贅で、特に足底にできる疣贅は治りにくいことが多いです。当科では、外科的切除治療の一種である「いぼ剝ぎ（いぼはぎ）法」（保険適用）を積極的に行っています。担当は川瀬で、紹介状をご用意していただき、水曜日午前にご予約ください。



乳がん看護認定看護師の役割

乳がんは40歳代～60歳代の方に多く見られる病気です。仕事や子育て、親の介護など、さまざまな役割を持つ世代であるため、治療を受けながら生活の工夫を重ねていくことが必要になります。診断を受けた時、多くの方が「治療はどのように進むの?」「仕事や家事は続けられる?」「家族にはどう伝えればいいだろう」「費用はどのくらいかかるの?」と、様々な不安や疑問を抱えられます。私たちは、お一人おひとりの生活の様子や大切にされている想いに寄り添い、安心して療養生活を送っていただけるよう支援を行っています。

治療選択の支援

乳がんの治療には、手術・薬物療法・放射線治療などがあり、患者ごとに治療内容は異なります。「医師から説明をうけたけど、自分で決めるのが不安」「難しい言葉があって説明がよく分からなかった」という場合は、病気の状態や生活状況に合わせ、一緒に考えながら治療法を決めるお手伝いをします。また、治療に伴う仕事や生活の調整、お子様への病気の伝え方などもご家族と一緒に考えていきます。



ボディイメージ（外見の変化）に関する支援

治療に伴う外見の変化に対してサポートします。抗がん剤治療による脱毛、皮膚や爪の変化に対しては、症状が出現するタイミングに合わせた生活の工夫、お手入れ方法、メイクなどのアドバイスをいたします。また、術後の補整下着や補整パットの試着を通して術後の生活にも支障がないようにお手伝いします。ウイッグや下着のサンプル見学だけでも、お気軽にお声がけください。

気持ちの落ち込みや将来への不安へのサポート

近年、乳がん治療薬の開発は進み、新たな選択肢が増えています。その一方で、治療が長期に及ぶこともあり、つらい気持ちや新たな心配ごとが出てくることもあるかもしれません。患者さんが大切にされていることや、ご家族の想いをお聞きしながら、これからの治療生活を一緒に支えていきます。「こんなことを相談してもいいのかな」と思うような小さなことでも、どうぞ遠慮なくご相談ください。（乳がん看護認定看護師/内藤 澄江）

相談窓口のご案内

患者相談窓口（入退院・医療連携センター）

